

平成20年2月7日付  
読売新聞



たいまつを手に、開門を待つ上り子たち（6日午後7時53分、和歌山県新宮市で）＝吉野拓也撮影

約1900人の男たちの手にしたたいまつが、暗闇の中で真っ赤に燃えさかる火祭り「お灯まつり」が6日夜、和歌山県新宮市の神倉山であり、「上り子」と呼ばれる男衆が、炎とともに山を駆け下りた。

熊野速玉大社の摂社、神倉神社に1400年伝わる神事。女人禁制の勇壮な祭りとして海外でも知られるようになり、この日はイギ

## 炎の疾走

和歌山・新宮 お灯まつり

リスのテレビ局も取材に訪れた。白装束に荒縄をかけた上り子らは市内の神社を巡ったあと、山頂のご神体「ごとびき岩」の下で点火を待った。火が行き渡った午後8時ごろ、山門が開かれ、538段の急な石段を駆け下りると、観光客らは光の帯のようになった炎に見とれていた。